

北海道における緑化樹の地域適応性 - サクラ類の事例から -

佐藤孝夫

緑化樹の生育を規制する主な要因

緑化樹を植栽する場合、どのような樹種がその地域で育つかということはきわめて重要な問題です。植栽した樹木が枯れてしまってもともありません。一般に北海道内では、冬期間地上部にある樹木の芽や枝の組織が低温に耐えられるか、冬期間の強風による脱水に耐えられるかが、生育を左右する主要な要因です。また、なかなか伸長を停止しない樹種や枝が木化しづらい樹種（本州などからの導入樹種に見られることがあります）など、冬の寒さに対する準備が遅い樹種では、晩秋から初冬の低温で枝や幹が枯れてしまうこともあります。さらに、積雪量も影響する場合があります、雪が保温の役目をするために、多雪地帯では生育しますが寡雪地帯では生育不良となる樹種もみられます。そのほか、潮風が当たる海岸近くや寒風が強くなる場所なども生育に大きな影響を与えています。

これまで緑化樹の地域適応性について記載された表はいくつかありましたが、地域は「道南、道央、道北、道東」の4区分しかありませんでした。しかし、それぞれの地域はとても広いので、より狭い地域での適応性を明らかにしてほしいという要望が、多くの緑化関係者からありました。そこで、全道の市町村毎に適応性を調べてみました。

どのようにして調べたか？

適応性を明らかにするためには、樹種ごとにどのくらいの最低気温に耐えられるのかを明らかにする必要があります。しかし、この調査には多大な労力と時間を要します。そこで、全道各地で実際に植栽されている樹種の生育状況や樹木の天然分布から適応性を調べてみました。

調査は2つの方法で行いました。ひとつは各支庁林務課を通じて全道212市町村(当時)に対するアンケート調査です。内容は(社)北海道造園建設業協会発行の「北海道の緑化樹」に掲載されている260種について、生育木の樹高や生育状況について記入してもらうとともに、その他特記する樹種や珍しい樹種があれば記載していただきました。もうひとつは実際に全市町村に赴き、公園や街路、学校をはじめとする公共施設、神社、個人の庭などに植えられている樹木の樹種名と生育状況を調査しました。

その結果、全道で植えられていた緑化樹種は350種以上にものぼりました。そして両方の調査結果を併せて、現在の生育状況を「生育良好」、「不良」、「未確認」に区分しました。そのうち主要な樹種を中心に305種を選び、各樹種ごとに周囲の市町村での生育状況、各樹種の天然分布なども併せて検討して生育適応性を判断し、「植栽適地」、「要注意地」、「不適地」に区分しました。

植栽適地では緑化樹としての生育が可能です。要注意地では生育はあまり良くはありませんので、基本的には公共事業等の植栽は奨められません。ただ、風の当たらない庭などではある程度の生育をする場合もあります。不適地では枯損する可能性がきわめて大きいといえます。なお、ここでは各市町村の市役所・役場のある地区を主に調査していますので、同一市町村内においても地区によっては若干異なる場合もあります。植栽地における樹種選定の目安として活用して下さい。

生育状況：道南地方では植栽事例はやや少ないのですが，その他はほぼ全道各地で見られ，いずれも良好な生育をしていました（図 - 3 左）。

植栽適地：全道各地で良好な生育が期待できます（図 - 3 右）。

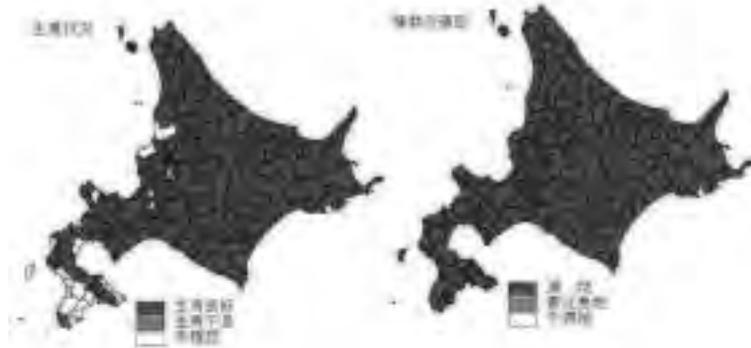


図 - 3 チシマザクラの生育状況と植栽適地

(4) ソメイヨシノ

エドヒガンとオオシマザクラの雑種といわれているサクラで，もっとも有名なサクラです。

生育状況：道内では北は猿払村，東は斜里町，厚岸町で植えられていましたが，生育は良くはありませんでした。主に南空知以南で比較的良い生育をしていました（図 - 4 左）。

植栽適地：主に南空知地方以南で生育が期待できます。また中空知地方から旭川市周辺にかけては注意を要します。その他の地域での植栽は奨められません（図 - 4 右）。



図 - 4 ソメイヨシノの生育状況と植栽適地

(5) サトザクラ

オオシマザクラなどをもとに古くから園芸的に作り出されてきたサクラの総称です。通称ヤエザクラとも呼ばれますが，5弁のものから30弁以上の菊咲きまで，多くの園芸品種があります。

生育状況：全道各地に植えられていましたが，道北地方や道東地方での生育はあまり良くはありませんでした（図 - 5 左）。

植栽適地：根室地方でも庭先で開花している個体も見られましたが，植栽はあまり奨められません。良好な生育が期待できるのは主に南空知以南です（図 - 5 右）。その他の地域では植栽に当たっては注意を要します。なお，品種によっても耐寒性に差があり，比較的強いと思われるものは「関山」です。



図 - 5 サトザクラの生育状況と植栽適地

(6) シダレザクラ

エドヒガンから出た園芸種で、枝が長く垂れ下がるのが特徴です。

生育状況：北は幌延町，東は斜里町，厚岸町で植えられていましたが，空知地方より以北および道東地方では生育は良くはありませんでした（図 - 6 左）

植栽適地：良好な生育が期待できるのはおおむね南空知以南です（図 - 6 右）。ただし日高地方や後志地方の一部では注意を要します。道北地方の一部や道東地方の大部分では植栽に適しません。



図 - 6 シダレザクラの生育状況と植栽適地

植栽に当たって留意する点

緑化樹を生育させるためには，適正な樹種の選定のほかに，苗木の品質，苗木の取り扱い，移植時期，植栽基盤，維持管理等によっても左右されます。そのため，生育可能な地域であっても生育不良となる場合もありますので，植栽に当たってはこの点にも十分に注意してください。とくに植栽基盤すなわち植える場所の土壌が極端に硬かったりすると，根が伸びることができず生育が不良となります。また，水はけが悪いと根腐れが起きやすく，生育は良くありません。さらに，強風の通り道や極端な日陰の場所なども生育に悪影響を与えます。

なお，今回紹介した樹種を含めた305種については，適応性の図と市町村毎の適否の一覧表を併せて（社）北海道造園緑化建設業協会から平成17年4月に「北海道における緑化樹の地域適応性」という題名で発行されましたので，詳細はそちらを御覧下さい。

（緑化樹センター主任研究員）